長月

〔ながつき〕令和７年９月

秋も深くなると日が暮れるのも早くなり、長時間にわたって月が見られるのでこの名があります。

発行：北海道神社庁一区教化委員会

今月のことば

世の中に暇ある身こそ悲しけれ

～ 高山宗砌・兼載雑談 ～

人生は常に頭を使ひ、身体を鍛へておかねばならぬ。すべての機能は動かしておかぬと活用しなくなる。暇があつてよいなどと云わぬことである。

人生で暇を持ちたいなどと考へることは不用のことである。その人の身の程々に従つて、毎日の仕事（頭でも、身体でも）に励むべきである。小生の如きも有用の暇を持ちたい、と念願してゐる。

有用の暇とは、世に役に立つ自分を磨く暇のことである。あの人は暇人であるなどと云われることは名誉のことでない。

（一般財団法人神道文化会編　神道百言より抜粋）

世の中に暇ある身こそ悲しけれ

～ 高山宗砌・兼載雑談 ～

季節のまつり

重陽

九月九日
不老長寿を願う「重陽の節供」

陽は「生」を意味し、陽の最大数である九が二つ重なることから「重陽」と呼ばれ、九月九日は非常に縁起のよい日とされ、この日は「登高」といって高い山に登ったり、寿命をのばすといわれる菊の花を浮かべた酒を飲んで不老長寿を願いました。また、「おくんち」と呼ぶ秋の収穫を祝う氏神祭の日として、栗飯を炊き、菊酒を飲んで祝ったところから、菊節供・栗節供とも呼ばれています。

防災

二百十日・二百二十日
台風災害の多い季節

二百十日は立春から数えて二百十日目の日で、毎年九月一日頃にあたります。（今年は八月三十一日）この頃は稲が開花するなど、農業にとって重要な時期ですが、台風に見舞われることも多い時期です。二百二十日も同様の雑節で、八朔（八月一日）とともに、農家の三大厄日として警戒されてきました。現在のように台風の予測が出来なかった時代より、人々はこの時期になると風を鎮める風祭などを行って五穀豊穣への祈りを捧げてきました。

又、九月一日は防災の日（関東大震災の日）として、自然災害に対する日々の備えを確認し、避難訓練などが行われております。

「お彼岸」に感謝の祈り

彼岸は、春分・秋分の前後三日を合わせた七日間で、今年の秋の彼岸は『九月二十日～二十六日』です。最初の日を「彼岸入り」、最後の日を「彼岸明け」、真ん中にあたる春分・秋分を「彼岸の中日（ちゅうにち）」といいます。「彼岸」とは仏教用語で向こうの岸という意味で、一切の悩みを捨て去って悟りの境地に達することをいいます。この極楽浄土は西方遥か彼方にあるとされているため、太陽が真西に沈む春分・秋分にお墓参りや先祖供養を行うようになりました。

この信仰は日本独自のもので、日本古来の祖先信仰と、彼岸は「日願」でもあるため、太陽の神を信仰する神道と結びつき、秋の収穫や自然に対する感謝の祈りが祖先に感謝する気持ちにもつながって大切な行事となりました。

「中日」に夕陽を拝むと功徳があるとされています。

点滴穿石（てんてきせんせき）

小さな努力を積み重ねて大きな成果をあげること。

参考文献
『くらしと祭り百話』　小野迪夫（神社新報社）
『日本人数のしきたり』　飯倉晴武（青春出版社）

令和７年　２０２５年　９月

日	月	火	水	木	金	土
	1 仏滅 とり	2 大安 いぬ	3 赤口 三りんぼう る	4 先勝 一粒万倍日 ね	5 友引 うし	6 先負 とら
7 仏滅 白露 一粒万倍日 う	8 大安 たつ	9 赤口 重陽 み	10 先勝 二百二十日 うま	11 友引 ひつじ	12 先負 一粒万倍日 さる	13 仏滅 とり
14 大安 いぬ	15 赤口 ● 敬老の日 る	16 先勝 ね	17 友引 うし	18 先負 三りんぼう とら	19 仏滅 一粒万倍日 う	20 大安 彼岸入り たつ
21 赤口 み	22 友引 うま	23 先負 ● 秋分の日 秋分 ひつじ	24 仏滅 一粒万倍日 さる	25 大安 とり	26 赤口 社日 彼岸明け いぬ	27 先勝 る
28 友引 ね	29 先負 うし	30 仏滅 三りんぼう とら				

二十四節気

【白露　はくろ】…　七日

旧暦八月酉の月の正節で、秋分前の十五日目にあたります。白露は〈しらつゆ〉の意で、秋気も本格的に加わり、野草に宿るしらつゆが秋のおもむきをひとしお感じさせます。

【秋分　しゅうぶん】…　二十三日

旧暦八月酉の月の中気で、この日は秋の彼岸の中日で国民の祝日にも定められ、祖先をうやまい、亡くなった人の霊をしのぶ日にあてられています。またこの日は春分と同じく、昼と夜の長さがほぼ等しく、この日を境にして徐々に昼が短く、夜が長くなっていきます。

六曜・選日

《六曜》
【先勝】…諸事急ぐことによし、午後よりわるし
【友引】…朝夕よし、正午わるし、葬式を忌む
【先負】…諸事静かなることによし、午後大吉
【仏滅】…万事凶、患えば長びくおそれあり
【大安】…何事をするのにも吉の日、大吉日
【赤口】…諸事油断すべからず、正午のみ吉

《選日の吉凶》
【三りんぼう】…三隣亡日、普請始め、棟上大凶日
【一粒万倍日】…出資・投資・購入、新規事業開始婚姻は吉、借りる、離別は凶

七十二候《９月》

白露
- 初候・草露白（くさのつゆしろし）　朝露が白く光って見える
- 次候・鶺鴒鳴（せきれいなく）　「チチチ」とセキレイの声が響きわたる
- 末候・玄鳥去（つばめさる）　ツバメが南の地域へと帰っていく

秋分
- 初候・雷乃収声（かみなりすなわちこえをおさむ）　夏の間に鳴り響いた雷が収まる
- 次候・蟄虫坏戸（むしかくれてとをふさぐ）　虫たちが冬ごもりの準備をはじめる
- 末候・水始涸（みずはじめてかるる）　田の水を落として稲穂の刈り入れを始める

※七十二候とは二十四節気の各節気をさらに３つの候に細分し、一年を七十二に分けたものをいいます。季節の移ろいを気象や動植物の成長・行動などに託して表現したものです。

「春社と秋社」社日とは？

社日（しゃにち・しゃじつ）とは、春分・秋分に最も近い戊（つちのえ）の日で、土地の神様をまつる日です。春の社日を春社、秋の社日を秋社と呼び、春社には五穀の種子をまつって、その豊熟を祈り、秋社には初穂を供えてその成熟を祝う行事が行われます。

農耕民族である日本では、各地でその地域によって違いはあるものの、土地の神様を信仰する風習は全国各地で根付いており、重要な農耕儀礼として現在でも様々な神事や行事が行われています。

又、この日は「土の神」をまつるので、農作業を忌むという風習があります。農作業の手を休めて産土神に参拝し、五穀豊穣を祈り大地の恵みに感謝をします。農家にとっては暦の上でも重要な節目の日となっています。

安産祈願　９月の戌（いぬ）の日

２日（火）・１４日（日）
２６日（金）

＊戌の日以外でも安産祈願のご奉仕をしております。神社にお問い合わせください。

《 １５日　敬老の日 》

多年にわたり社会に尽くしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う日です。

《 ２３日　秋分の日 》

祖先をうやまい、なくなった人々をしのぶ日です。

● 祝祭日には国旗を掲げましょう